

はじめに

自然公園の利用のあり方について、環境庁の自然環境保全審議会利用のあり方検討小委員会の検討結果が報告されて10年になる。

この間、社会活動全般にわたって都市化が進行し、自然に対する国民の関心は一段と高まってきた。

都市の人工的環境で生まれ育った人間が、過半数を占める現在、野性に満ちた自然公園の中で、あるがままの自然についての原体験を得ることは、人間性の回復に欠くことができない要件であり、公園利用上最優先されることである。今後、都市化が一層進展する中で、高度にシステム化された都会を離れて、本物の自然と直接ふれあい、感受性を高め、情感を育てることは、自然公園の利用の大きな柱であると、報告書は述べている。

自然ふれあい舎では、公園利用の今日的視点に共感し、国立公園がその役割をはたす絶好の場であるとの認識の下に、「国立公園ふれあいネットワーク」を主宰して、多くの仲間たちと自然ふれあいトレッキングを实践し、自然体験型利用のモデルづくりに取り組んできた。

このたび、タカラハーモニストファンドの格別のご理解と、暖かいご支援によって、この1年、各地の国立公園で自然ふれあいトレッキングを活発に展開することができ、トレッキングに参加された方々からも多大の感謝の言葉をいただいている。合せてファンドの皆さまに厚く

お礼申し上げますとともに、これからも一層研鑽を積んで自然ふれあいトレッキングの普及・啓蒙に努めてまいる所存である。

1. 自然ふれあいトレッキングの展開

(1) 国立公園ふれあいネットワークの形成

自然ふれあい活動を進める国立公園ふれあいネットワークは、世話人たちの人脈や、新聞記事によって参加者を集め、平成8年10月に120名のメンバーでネットワークがスタートした。山や自然が大好きな、健康で活動的な仲間たちがふれあいトレッキングに参加し、回数を重ねるごとに仲間が仲間を呼んで、ふれあいの輪が大きく広がった。

ネットワークが発足して2年半を経た今、299名のメンバーが自然ふれあい活動を支える核となっている。

(2) 自然ふれあいトレッキングの企画運営

ア. 企画運営の基本的考え

自然ふれあいトレッキングは、自然ふれあい舎が国立公園ふれあいネットワークの中核となって、メンバーのためのグループトレッキングを企画運営する。

トレッキングの舞台は、美しい日本の風景を代表する国立公園の核心を極める地域とする。

トレッキングの時期は、対象となる自然が最も輝くとき、或いは、その地域ならではの自然のドラマがダイナミックに演じられるときを選

んで、感動の世界をセットする。

トレッキングのスタイルは、すべて歩くことを基本にする。コースは、体験の有無を問わず歩くことが確りできれば、誰もが参加できる内容とする。

トレッキングは、15～20名のメンバーで実施する。日程は3～4日とし、自然ふれあいの時間をたっぷりとする。

トレッキングの宿舎は、山小屋、国民宿舎、国民休暇村、ペンションなど比較的低廉な料金で、トレッキングの目的が適られる施設とする。

トレッキングの参加費は、宿泊、輸送、通信連絡、保険等の必要経費に、ガイド経費（宿泊旅費）を加えたものとし、講師謝金は、特別に依頼する外部講師を除き、経費に計上しない。

トレッキング参加者は、必ず国内旅行保険に加入する。保険の契約事務は、事務局で一括処理する。

イ. トレッキングプログラムの構成

企画運営の基本的な考えのもとに、コース、期日、参加費等を記した年間プログラムを作成し、メンバーに配布する。

プログラムは、①国立公園を対象に、それぞれ特色のある美しい自然を広く体験する「国立公園シリーズ」と、②国立公園のシンボルでもある上高地を中心に、槍・穂高連峰の精緻極まりない自然と深くふれあう「上高地シリーズ」に分け、四季おりおりにバランスよくプログラムを構成する。

国立公園シリーズは、4月「春の屋久島宮之浦岳」にはじまり、本年3月の「サンゴ礁の海と西表島」まで、12回のトレッキングを実施し、北の利尻礼文サロベツ国立公園から、南の西表国立公園まで、10国立公園の核心部を訪ね、ヤクスギ巨杉、シャクナゲ、ミヤマキリシマ、高山植物、紅葉、新雪、霧氷、流水、サンゴ礁な

ど彩どりあふれる自然とふれあう。

上高地シリーズは、5月の「新緑の上高地・徳本峠」にはじまり、新緑、高嶺の花、紅葉、新雪そして3月の「雪の上高地」まで、季節をおって9回のトレッキングを実施し、奥穂高岳や槍ヶ岳の山頂にも立って、日本アルプスの魅力にひたる。

ウ. トレッキングの参加方法

ふれあいネットワーク通信で、トレッキングの年間計画がメンバーに提示され、希望のコースがアンケートによって事務局に回答される。トレッキングの実施2ヶ月前までに、トレッキング案内が希望者に送られ、1ヶ月前までに参加申し込みがあったところで、トレッキングの詳細を連絡し、参加者全員に国内旅行総合保険をかけて参加準備が整う。

エ. トレッキングの実施

トレッキングの当日、参加者は所定の場所に、時間までに集合する。集合場所は、第一日目の宿泊先となることが多い。宿での最初のミーティングで、行動の細部を打合せ、指示事項や自然観察のポイントなどを説明する。宿でのくつろぎの時間は、参加者同志のふれあいのときでもある。初めて参加される方も、同好の仲間と直ぐ打ちとけて、第一日目から楽しいふれあいがはずむ。

トレッキングの行動は、すべてリーダーの指揮の下に進められる。リーダーの資質がトレッキングの成否を左右するが、自然ふれあいトレッキングでは、永年、国立公園レンジャーの職にあつて、自然ふれあいや登山に深い経験をもつ自然ふれあい舎代表の澤田栄介が、自らトレッキングの企画を練り、コースリーダーとなつて、毎回トレッキングを先導する。自然ふれあいのポリシーと、現地での生々しい自然情報の

ガイド、そして行動の安全が一貫することで、信頼を一層高める。

また、女性メンバーが多数を占めることから、女性のアシスタントリーダーを同行させる。この他、動植物や星座に詳しい方が参加することも多く、自然観察の助っ人となる。

トレッキングの最終夜は、共に汗して、感動を分かちあった同志が、思いを一つにして自然ふれあいを語り合う。そして、次なるトレッキングでの再会を約束し、別れを惜しむ。

2. 自然ふれあいトレッキングの成果と実績

ア. 前年度に実施した8回のトレッキングの成果を踏えて、平成9年度の自然ふれあいトレッキングが実践された。参加定員を満せなかったものもあるが、事故もなく、延べ353人の参加者を集めて、順調に21回のトレッキングを終えることができた。参加された方々から予想を超える高い評価を受け、自然ふれあいトレッキングの着想と実行に自信を深めた。

イ. 自然ふれあいトレッキングは、自然ふれあいの時代に合った、自然体験型利用のモデルケースとなる。参加者が自からの足と感性でもって、自然が発するメッセージを感じとり、喜びや感動を新たにすることが、さらなるふれあいへの期待につながり、トレッキングの発展をもたらす。21回のトレッキングが、それを実証する。

ウ. 貴重な自然遺産でもある国立公園を学び、理解を深めて自然と楽しくつきあう公園利用のあり方を提示する。自然ふれあいトレッキングは、国立公園が本来もつ計りしれない雄大さ、精緻さ、壮厳さ、神秘さ等々を肌で実感し、自然の偉大さや尊さを真に学び、かけがえのない自然を大切にする自然利用のノウハウを創る。

エ. 自然ふれあいトレッキングの実践が、国

立公園ふれあいネットワークの大勢の仲間をとおして広がり、自然を護る尊い力となる。

ウ. 平成9年度自然ふれあいトレッキングの活動実績は、次のとおりである。

<国立公園シリーズ>

コース名	時期	人数
①春の屋久島宮之浦岳	4/11~14	20名
②残雪の八甲田山	5/9~12	10名
③新緑の大杉谷・大台ヶ原	5/16~18	10名
④九重山ミヤマキリシマ	6/15~18	13名
⑤花の利尻山と礼文島	7/17~21	20名
⑥花の燕岳と常念岳	8/7~9	28名
⑦秋の岩手山と八幡平	9/26~28	6名
⑧紅葉の尾瀬	10/3~5	19名
⑨紅葉の雨飾山	11/1~3	34名
⑩霧氷の霧島山	1/23~25	14名
⑪流水の知床と屈斜路湖	2/11~15	8名
⑫サンゴ礁の海と西表島	3/26~30	18名

活動回数12回。延べ日数45日。参加者199名。

<上高地シリーズ>

コース名	時期	人数
①新緑の上高地	5/30~6/1	24名
②新緑の上高地・湊沢	6/6~10	12名
③花の湊沢・奥穂高岳	8/21~24	12名
④紅葉の上高地・檜ヶ岳	9/20~23	11名
⑤紅葉の上高地・湊沢	10/16~19	31名
⑥紅葉の上高地・焼岳	10/24~26	11名
⑦紅葉の上高地・島々谷	10/26~28	10名
⑧新雪の上高地	10/12~14	28名
⑨雪の上高地	3/7~9	15名

活動回数9回。延べ日数32日。参加者154名。

3. 今後の活動計画と展望

美しい日本の風景を代表する国立公園を舞台

に、ふれあい豊かな感動のトレッキングを創るノウハウが、これまでの数多くのトレッキングによって確立されてきた。

平成9年度につづいて、平成10年度も、これまでと同様の方法で、国立公園シリーズ15回、上高地シリーズ10回、計25回のトレッキングを実施し、一層の充実をはかる。

さらに、平成11年度は、国立公園に加えて、国立公園の核心部においてもトリッキングを実施する予定で、国立公園等シリーズ16回、上高

地シリーズ10回、計26回のトレッキングを計画し、自然ふれあいトレッキングの完成と、その普及啓蒙に努める。

国立公園ふれあいネットワークを活動母体とする自然ふれあいトレッキングは、平成11年末をもって活動に一区切りをつけるが、4年間のトレッキングで培かわれた自然観や現体験が、ネットワークに参加する多くのメンバーによって、自然ふれあい時代にふさわしい新たな活動の礎となることを期待する。



花の澗沢・奥穂高ふれあいトレッキング
97年8月23日



九重山ミヤマキリシマふれあいトレッキング
97年6月16日